

- ・町田市のHPから書式をダウンロードしてください
- ・指定確認検査機関に中間検査、完了検査を提出する予定の建築物であっても、この報告書は町田市に提出してください
- ・工事監理者及び工事施工者は、本報告書と確認済証及び設計図書の内容が整合していることを十分確認してください

建築工

建築基準法第12条第5項の規定に基づき、この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

〇〇〇〇年 〇月 〇日

町田市長 様

代表となる工事監理者 住所 〇〇〇〇 電話 〇〇(〇〇) 〇〇
 会社名 〇〇〇〇 (一)級建築士事務所(〇〇)登録第(〇〇)号
 氏名 〇〇〇〇 (一)級 建 築 士(大臣)登録第(〇〇)号

工事施工者 住所 〇〇〇〇 電話 〇〇(〇〇) 〇〇
 会社名 〇〇〇〇 建設業の許可 大臣・知事特-〇第(〇〇)号
 氏名 〇〇〇〇

(法人にあつては、その事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)

品質窓口責任者氏名 電話 ()

B方式(本社等の支援体制が組み込まれた品質管理の方法)の場合

記

(1) 工事現場	名称	〇〇〇〇新築工事		工区棟	工事の種類	新築・増築・改築
	所在地	町田市〇〇〇〇				
(2) 構造設計者	氏名	〇〇 〇〇	所属会社	〇〇〇〇	電話	〇〇(〇〇) 〇〇
(3) 現場代理人(所長)	氏名	〇〇 〇〇	現場事務所	町田市〇〇〇〇	電話	〇〇(〇〇) 〇〇
(4) 階数	地上〇階・地下〇階 塔屋〇階		(5) 建築面積	m ²	(6) 延べ面積	m ²
(7) 構造	木造・S・RC造・WRC造・SRC造・混構		敷地内に複数棟ある場合、建築面積は確認申請書の第三面の面積、延べ面積は第六面の申請対象規模の建築物の合計面積を記載してください(地上3階かつ500m ² 以上の棟の面積の合計)			
(8) 高さ	軒高〇〇.〇〇m 最高〇〇.〇〇m		(9) 確認済証交付機関	〇〇〇〇〇〇		
(10) 確認・計画通知、年月日及び番号	〇〇〇〇年 〇月 〇日		第 〇〇〇〇 号			
(11) 計画変更年月日及び番号	年 月 日		第 号			
(12) 構造計算の方法	(X) ルート(3)、(Y) ルート(3)、その他()					
(13) 構造(階ごと)	RC造・WRC造	〇階から 〇階まで		(14) 使用部位	PCa・HPCa	スラブ (HPCa)
	SRC造	階から 階まで			PC	
	S造	階から 階まで			CFT	
	PCa	〇階から 〇階まで				
(15) 認定材料	コンクリート	MCON〇〇〇〇				※ 受付欄
	鋼材等	高強度コンクリート、高強度せん断補強筋、梁貫通補強筋等を使用する場合は記載				
	免震・制振部材	梁貫通孔補強(高強度せん断補強筋 M〇〇〇-〇〇〇〇)				

(注意) 1 ※印のある欄は、記入しないでください。
 2 代表となる工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容と確認済証及び設計図書等が整合しているか十分確認して記入してください。

鉄筋工事及びコンクリート施工計画報告書

コンクリート使用材料及び施工

基礎の種類

□直接基礎 { □ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 }
■くい基礎 { ■場所打ち鉄筋コンクリート杭 □既製杭 (PHC杭、SC杭、鋼管杭、その他 ()) }

コンクリート確認項目

施工	使用工法	在来		基準	■JASS5(2018年版) □その他()		
	使用部位	杭	基礎	○階～○階	○階～○階	階～階	階～階
	設計基準強度	30 N/mm ²	36 N/mm ²	36 N/mm ²	36 N/mm ²		
	打設方法	トレミー管打ち	ポンプ打ち	ポンプ打ち	ポンプ打ち		
	使用工法	PCa			軽量()種	モルタル	グラウト
	使用部位	○階～○階	階～階	階～階	階～階	階～階	
	設計基準強度	33 N/mm ²					
	打設方法	バケット打ち					

試験・検査計画	品質管理責任者 氏名 ○○建設 ○○ ○○			工事監理者 又は係員氏名	常駐 非常駐	
	検査担当者(工事施工者) 氏名 ○○ ○○					元請けの担当者を記載
	検査項目	打込前	■試練 ■散水 ■配筋 ■かぶり厚さ		○○ ○○	常・非
		打込中	■テストピース採取 ■打込速度・順序 ■締固め		○○ ○○	常・非
		打込後	■養生方法 ■養生温度 ■打込欠陥		○○ ○○	常・非
	エア・スランプ試験等の代行業者名			○○検査サービス(株) 登録番号 採高強-○○-(××)-△△号		
	供試体の養生場所・管理者			○○検査サービス(株) 標準養生 ○○ ○○ 供試体の養生場所、養生方法、管理者氏名を記入		
構造体コンクリート試験機関名			Fc36N/mm ² 以下の場合 (財) ○○試験所 都登録第○○○○-○○-△号 Fc36N/mm ² 超の場合 (財) ○○試験所 都登録第試B○○-(×)-△号			

鉄筋使用材料及び施工

使用鉄筋	種別	SD295	SD345	SD390	SD490	その他()
	使用径	D 10 ~ D 16	D 19 ~ D 25	D 29 ~ D 32	D ~ D	D

鉄筋確認項目	施工	継手種類	圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)
		使用箇所	基礎、柱、梁主筋		BIF 柱主筋				壁、スラブ等
		継手工法名(溶接材料)			○○ジョイント				
		継手施工会社(優良圧接業者)	(株)○○圧接(優)		○○(株)				
		優良継手施工会社の場合(優)を記入	A 級	その他	SA, A級	その他	A 級	その他	
	技量確認・施工前試験	有	無	有					
	冷間直角カッターの使用	有	有						
	試験・検査計画	外観検査(%)	100	100	100				100
		引張試験(箇所/ロット)		5					
		超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)	30%		10箇所/ロット				
引張試験併用		有		無					
引張試験機関名		○○試験所○○試験室				都登録 第試A○○-(×)-△号			
非破壊検査機関名	○○検査				都登録 第筋○○-(×)-△号				
外観検査実施者	工事監理者・工事施工者/検査機関				都登録 第筋○○-(×)-△号				

鉄筋コンクリート工事重点管理項目

- ・配筋が密となる箇所について、鉄筋のあき、かぶりごとれていることを確認する
- ・コンクリート打込み欠陥部の状況を確認し、欠陥に応じた補修を行う

品質確保のため、重点的に管理する項目について、
工事施工者(元請け)、工事監理者それぞれの立場から記入

工場から現場までの地図を別途添付

レディーミクストコンクリート工場名※1		〇〇生コン(株) ××工場			
JIS認証番号	GB〇〇〇〇	認証品目	普通、高強度	運搬時間	30分
コンクリートの設計及び仕様による条件					
番号	打込箇所	※2 コンクリートの種類1	設計基準強度(N/mm ²)	強度管理材齢(日)	セメントの種類
	打設期間	※3 コンクリートの種類2	品質基準強度(N/mm ²)	養生方法	スランブ スランブフロー(cm)
枝番	適用期間		呼び強度(調合管理強度)(N/mm ²)	判定基準強度(N/mm ²)※4	コンクリート温度(°C)※5
1	杭	普通	30	28	BB
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇	水中	30	標準	18
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇		33 (33N/mm ²)	33 (30+3)	-
2	基礎	普通	36	28	M
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇	マスコン	36	標準	21
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇		40 (39N/mm ²)	39 (36+3)	35以下
3	B1F立上り ~2F床	普通	39	28	N
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇	高強度	36	標準	21
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇		43 (43N/mm ²)	43 (39+4)	35以下
4	2F立上り~ 〇F床	普通	36	28	N
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇	通常	36	標準	21
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇		40 (39N/mm ²)	39 (36+3)	-
5	〇F立上り ~〇F床	普通	33	28	N
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇	暑中	33	標準	21
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇		40 (39N/mm ²)	39 (33+6)	35以下
6	〇F立上り ~〇F床	普通	30	28	N
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇	寒中	30	標準	21
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇		36 (36N/mm ²)	36 (30+6)	10以上
7	〇F立上り ~〇F床	普通	27	28	N
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇	通常	27	標準	18
	RO.〇.〇 ~RO.〇.〇		30 (30N/mm ²)	30 (27+3)	-
捨てコン、パラペット等は記載不要					

(注意) 1 レディーミクストコンクリート工場が複数ある場合は、工場ごとに作成する。
 2 コンクリートの使用骨材による種類を記入する。
 3 コンクリートの使用材料・施工条件・要求性能などによる種類(通常、寒中、暑中、軽量、流動化、高流動、高強度、マスコン、プレストレスト、水中、水密)を記入する。
 4 高強度コンクリートの場合は、Fc+mSnのそれぞれの項の値を()内に別途記入する。
 5 高強度・マスコン・暑中・寒中コンクリートについては、必ず記入する。

コンクリート試験計画及び鉄筋試験・検査計画一覧

番号	打込箇所	打込期間 (年 月 日)	コンクリート圧縮強度 試験回数 ※1	番号	鉄筋接合 箇所 (継手種類)	継手予定 (年 月 日)	鉄筋引張 試験回数 ※3	超音波探傷・測定検査 (箇所/ロット又は%)
枝番		打込予定数量 (m ³)	うち防災センター 試験回数 ※2		B方式のみ記載	継手予定数量 (箇所)	うち防災センター 試験回数 ※2	引張試験併用 (箇所/ロット)
1	杭	RO.O.O ~RO.O.O	22	1	地中梁 (ガス圧接継手)	RO.O.O ~RO.O.O	16	0
		2,000	3			2,500	3	0
2	基礎 地中梁	RO.O.O ~RO.O.O	8	2	B1F梁 (ガス圧接継手)	RO.O.O ~RO.O.O	3	180/6 (箇所/ロット)
		1,000	2			1,000	3	15/3 (箇所/ロット)
3	B1F立上り ~1F床	RO.O.O ~RO.O.O	15	3	B1F柱 (機械式継手)	RO.O.O ~RO.O.O	0	150/5 (箇所/ロット)
		1,500	3			800	0	-
			
○	○F立上り ~○F床	RO.O.O ~RO.O.O	10	○	○F梁 (ガス圧接継手)	RO.O.O ~RO.O.O	4	0
		1,200	2			700	1	0
○	○F立上り ~○F床	RO.O.O ~RO.O.O	10	○	○F柱 (ガス圧接継手)	RO.O.O ~RO.O.O	0	150/5 (箇所/ロット)
		1,200	2			800	0	0
番号、打込み箇所、打込み予定日はその2と合わせる 配合計画書の添付は不要								
合計		打込予定数量 (m ³)	コンクリート圧縮強 度試験回数	合計		継手予定数量 (箇所)	鉄筋引張試験 回数	超音波探傷・測定検査 (箇所/ロット又は%)
		○○,○○○m ³	○回			○○,○○○ 箇所	○回	○箇所 (○ロット)
			うち防災センター試験 回数	B方式のみ記載			うち防災センター 試験回数	引張試験併用 (箇所/ロット)
			○回				○回	○箇所 (○ロット)
供試体試験 1回の試験のうち (告示第1102号)	28日	3本	支柱早期除去用 部位(梁下・床下)	日本	PS導入用	日本		

(注意) 1 1検査ロットの試験回数は1回とし、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ150m³又はその端数ごとに1検査ロットとする。ただし、高強度コンクリートは1検査ロットの試験回数は3回とし、打込み工区ごと、打込み日ごと、かつ300m³又はその端数ごとに1検査ロットとする。

2 防災センターとは、(公財)東京都防災・建築まちづくりセンターのことをいう。

3 1組の作業班が1日に行った圧接箇所を1検査ロットとし、圧接箇所数が200箇所を超えるときは、200箇所ごと及びその端数ごとを1検査ロットとする。抜き取り本数は、ガス圧接継手の場合は1検査ロットに対して5本、溶接継手の場合は3本以上とする。